

行政改革推進会議（第52回）

議 事 録

内閣官房行政改革推進本部事務局

行政改革推進会議（第52回）

議 事 次 第

日 時 令和5年3月31日（金）17:00～17:22

場 所 官邸2階小ホール

1. 開 会

2. 議 事

（1）今後の行政事業レビュー等の取組について

（2）その他報告事項について

3. 議長挨拶

4. 閉 会

○岡田行政改革担当大臣 それでは、ただいまから、第52回「行政改革推進会議」を開会いたします。

本日は御多忙の中、御出席、誠にありがとうございます。

司会兼説明役ということで一人でやってまいります。まず、私から、今後の行政事業レビュー等の取組について、説明資料を用いて御説明申し上げます。

1 ページ目、冒頭にありますように、昨年12月、総理から行政事業レビューの抜本見直しと基金の執行チェックの徹底について御指示がありました。この御指示を踏まえ、下段にありますように「1. 行政事業レビューへのEBPMの導入と予算編成過程での積極的な活用」、そして「2. 基金事業の点検の強化」を今後の改革の二本柱として具体的方針を決定し、来年度から実行に移したいと、このように考えております。

まず「行政事業レビューの抜本見直し」について、2 ページを御覧ください。

ページ上段であります。行政事業レビューの目指す姿としまして、約5,000事業、一般会計で約60兆円に上る国の全ての予算事業について、EBPMの手法を本格的に導入してまいります。これにより、①長年続けられてきた事業であっても、時代にそぐわなくなったものは廃止も含めて見直す。②未知の課題に対しても、手遅れになる前に、最善と考える政策を速やかに打ち出して、柔軟に軌道修正する。こうした時代の変化に機動的・柔軟に対応できる気風を霞が関に定着させてまいりたいと考えております。

下段に「具体的方策」として、まず（1）レビューシートの作成単位を予算編成で議論している単位にそろえる標準化を行って、令和6年度予算の編成から積極的に活用いたします。

次に、（2）レビューシートとレビュープロセスを見直します。まず、レビューシートについては、具体的な成果目標を、段階的に短期、中期、長期と設定することとして、それぞれの目標年度における政策効果の把握と見直しを徹底いたします。

加えて、レビュープロセスにおける点検については、過去に指摘のなかった事業では簡素化を図るなど、メリハリをつけて、効果的かつ効率的に行いたいと考えております。

続いて「基金事業の点検強化」について、3 ページを御覧ください。

上段の「目指す姿」であります。基金事業には、①中長期的視点から柔軟な執行ができるメリットと、②執行管理が難しいといったデメリットがございます。メリットを活かしながらデメリットに適切に対応するために、全ての基金を対象に、執行状況の点検を強化して、効果的かつ効率的な資金の利用や、余剰資金の国庫返納などを進めてまいります。

下段に「具体的方策」を記載しております。まず（1）基金シートにもEBPMを取り入れ、政策効果の「見える化」と「最大化」を図ります。次に、（2）外部有識者による点検を新たに導入します。これにより、基金に対してよく指摘されます。今後の事業見込みに対して保有資金が過大ではないか、また、事業の終了時期を設定すべきではないか、また、管理費の水準が妥当か、こうした点を厳しくチェックしてまいります。

最後に、4 ページを御覧ください。

今回の見直しを実効性あるものとなるように、個別のレビューシートの品質管理を政府全体で計画的に進めてまいります。

まず、4月に、各府省からなる会議体を設置するなど「府省横断的な推進体制」を整備するとともに、優れた取組の選定や表彰も進めたいと思います。

その上で、9月には、先行して取り組んできた「重点フォローアップ等」の結果を公表し、横展開を図ってまいります。

また、11月の「秋のレビュー」では、基金を巡る課題について集中的な議論を行います。

さらに、来年春の「行政事業レビューシートシステム」の稼働により、作業負担の軽減や透明性の向上を図ります。

これらの内容について、実施要領の改定などを行います。その詳細は別添の資料2から4に書かせてございます。

このほか、報告資料として、資料7から10を配付しております。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

続いて、本日御出席いただいております関係省庁の担当大臣より、御発言をお願いいたします。それでは、松本総務大臣、お願いいたします。

○松本総務大臣 総務省のほうから、資料5を提出させていただいております。

お聞きいただくと、表紙の裏側に概要の図がございますので、御参照いただけたらと思っております。

今回、政策評価に関する基本方針の一部変更をさせていただくのですが、社会経済情勢の変化に対応できる行政の実現には、政策の効果と現状を把握の上、機動的かつ柔軟に軌道修正しながら前進する政策展開が必要であります。

このため、昨年12月の総理の御指示を受け、「政策評価に関する基本方針」を見直すこととし、政策効果の把握・分析機能の強化を図り、政策の実施状況や効果の的確な把握と、意思決定過程における一層の政策評価の活用に、政府全体として取り組むこととしました。

その際、政策評価と行政事業レビューが政策の改善ツールとして連携し、一体として効果を発揮するため、政策評価や行政事業レビュー等から得られた政策の改善に資する指標等の情報を相互に活用・集約することで、作業の重複排除と評価書等の質的向上を図ることとしております。

総務省としては、こうした取組が実効性あるものとなるよう、行政事業レビューとも連携し、取組の実例やノウハウの蓄積・提供など、各府省の支援に取り組めます。

新たな挑戦や前向きな軌道修正を積極的に行うことが、行政の無謬性にとらわれない望ましい行動として高く評価されることを目指し、しっかり取り組んでまいります。

○岡田行政改革担当大臣 ありがとうございました。

それでは、井上財務副大臣、お願いいたします。

○井上財務副大臣 ありがとうございます。

鈴木大臣が出張中でございますので、私のほうから発言させていただきたいと思っております。

岡田大臣から御紹介がありました行政事業レビューシートの内容や単位の見直しにつきましては、予算編成過程におけるEBPMの実践に向けて重要なものだと我々も考えております。

加えて、令和6年度に稼働が予定されております行政事業レビューシステムにつきましては、データの活用による政策や予算の質の向上にとって重要であると考えております。

財務省といたしましても、デジタル技術等を活用し、予算編成業務の効率化を図ってまいりたいと考えております。

また、予算の透明性や質の向上を図る観点から、エビデンスに基づいた予算編成を行うことは重要だと考えておきまして、各府省との予算編成過程におきまして、行政事業レビューや政策評価などを積極的に活用してまいりたいと考えております。

以上です。

○岡田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、続きまして、今後の行政事業レビューについて、有識者構成員の皆様から御意見を伺いたいと存じます。

御発言はお名前の五十音順ということで、まず、島田委員、お願いいたします。

○島田構成員 ありがとうございます。島田と申します。よろしくをお願いいたします。

これまでのプロセスも経まして、今回の内容に関しましては、具体的な改善というのが本当に行われている、総理の御発言に基づきまして、皆さんが全体一致、団結してやられているというところが私はすばらしいなと思っております。

エビデンス・ベースド、EBPMということですが、同時に、私の専門の、バックグラウンドからの意見になりますが、組織論とか人のモチベーションとか、そういった観点からいきますと、やはりこれがプロセス重視になってしまって、またここが目的と乖離してしまわないようにというところがすごく大切なのではないかと。本当によい政策をつくっていく、ここの資料にもありますけれども、実質的な議論に集中するためというようなところとか、機動的で柔軟な展開、このアジャイルと言われるところには信頼というのがすごく大事になってくると思うので、関わられる皆さんがウェルビーイング高くやっただくという、ウェルビーイング・ベースド・ポリシーメーカーというものも大事にしていければいいのではないかなと思います。

以上になります。ありがとうございます。

○岡田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、高島委員、お願いいたします。

○高島構成員 福岡市長の高島でございます。よろしくお願ひします。

行政事業レビューについては、シートの改善、システム化、それから、予算編成での活用といった見直しを行われることによって、省庁職員の皆さんが、評価資料作成よりも事業見直しの検討など、より本質的な部分に注力できるようになると思います。改めて事務局の皆さんに敬意を表したいと存じます。

地方自治体の立場でお話をさせていただきますと、行政事業レビューは、もちろん、国の歳出を点検するものではあるのですが、ぜひ将来的には、自治体とか民間事業者の事務、それから、国民の事務の負担も含めたトータルコストの視点からも評価できればなおよいのではないかと思います。

例えば、国が補助金とか交付金を支出して、それを自治体が事務を担う各種の給付金の事務というものは、これは自治体の事務コストが非常に大きい一方で、そうかといって地域の独自性を発揮する余地もほとんどないわけであります。特に岸田総理、河野大臣、松本大臣のリーダーシップで、今、マイナンバーカードの申請数がついに運転免許証の交付数を超えたというような状況もあって、国民が行政手続を手元のスマホで行うことができるようになったり、また、国と自治体が共通のデータ基盤を活用することも可能になったという状況の変化もある中で、従来は自治体ごとに担う前提だった事業も、国がまとめて行ったほうが、迅速かつ低コストで実施できる可能性もあると思います。特に、具体的に言うと給付金についても、マイナンバーカードなどを使い、国民に直で振り込むというような形をイメージしています。

行政事業レビューにおいては、既存事業の成果の検証にとどまらずに、社会情勢の変化に応じて、実施の手法や役割分担が適切なものとなっているかといった俯瞰的な議論も行われることも期待をいたします。

そのためにも、実施を自治体が担う事業については、これはデータの背景にある現場の実態も把握していただきたいし、今後、外部有識者点検というものを、現場の声など、定性的な情報も含めて総合的に評価を行う場として有効に機能させていただければいいなと思います。

以上でございます。

○岡田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、武田委員、お願いいたします。

○武田構成員 ありがとうございます。武田でございます。よろしくお願い申し上げます。

まず、この行政事業レビューでのEBPMの実践に向けて整備が進んだことは、大変大きな成果だと思います。総理、大臣のリーダーシップ、そして、事務局の御尽力に敬意を表したいと思います。

今後、実効性を伴う運用がなされ、EBPMマインドが定着していくことが大切だと思います。その観点から3点、意見を申し上げます。

第1は、運用サイクルの定着でございます。

政策の意思決定や予算編成プロセス、基金事業の点検に活用していくことが不可欠だと思います。遂行後は、エビデンスで成果を点検し、政策を機動的に柔軟に見直すこと、そして、目標とした年に設定したゴールが達成できたか評価し、それを、次の政策決定に活かしていくこと、そうした運用サイクルの好循環が必要と考えます。

第2は、取組自体の改善です。

EBPM推進委員会では、シートが記入されているかではなく、本質的に目標が達成されているかどうか、ここを問い続けていただきたいと思います。そのためには、方法も常に改善していく姿勢が問われます。エビデンスについては、現在、オルタナティブデータも様々出てきておりますし、また、デジタル技術も進化しておりますので、効率的かつスピーディーに進められるよう、常に改善いただければと思います。

第3に、省庁幹部、職員のモチベーション向上につなげることです。

アウトカムが「見える化」されれば、それに携わった方々が自らの貢献の成果を実感できるようになります。また、評価に反映されるようになりますと、政策の企画、遂行者のモチベーションにつながるるとともに、成果が「見える化」されることでウエルビーイングも感じられると思います。スピードや質の改善にもつながっていくと思いますので、そうしたモチベーション向上につなげる取組もお願いできればと考えます。

岸田政権において、ぜひ、この取組を粘り強く取り組んでいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○岡田行政改革担当大臣 それぞれに貴重な御意見をありがとうございました。

本日、御出席がかなわなかった先生方からも、有識者構成員事前提出意見ということで資料6として配付いたしておりますので、どうか御参照ください。

有識者構成員の皆様から貴重な御意見をいただき、改めてお礼申し上げます。それでは、資料案のとおり決定させていただいてよろしゅうございましょうか。

(「はい」と声あり)

○岡田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、ここでプレスが入室いたしますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○岡田行政改革担当大臣 それでは、結びに、岸田総理から締めくくりの御発言をいただきたいと存じます。お願いします。

○岸田内閣総理大臣 本日は、行政事業レビューと基金について、委員の皆様にご議論をいただき、御賛同いただきました。

まず、行政事業レビューを抜本的に見直します。

レビューの実施単位について、約60兆円に上る政府の全ての予算事業に合わせて標準化します。その上で、全ての行政事業レビューシートについて、事業の性質に応じてEBPM、すなわち、エビデンスに基づく政策立案の手法を本格的に導入し、来年度の予算編成から活用していきます。

これにより、長年続いてきた事業であっても、データに基づいて効果を検証し、効果が上がっていないものは迅速に見直す、未知の課題に対して速やかに政策を実施した上で、データを踏まえて柔軟に軌道修正を行うことを通じ、限られた資源を有効活用しつつ、時代の変化に柔軟に対応する行政の実現に取り組んでまいります。

また、基金についての点検を強化いたします。具体的には、EBPMの手法を基金シートに

も取り入れ、基金事業の効果の「見える化」「最大化」を進めてまいります。あわせて、保有資金の規模や事業の終期設定が適切かなどについて、第三者の眼を入れた点検を導入し、余剰資金があれば迅速に国庫に返納するなどの取組を進めます。

これらの取組を、岡田大臣の主導の下、総務大臣、財務大臣とともに、各府省と連携して着実に進めてください。委員の皆様には、引き続き御協力をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

以上です。

○岡田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、プレスの方々はこちらで御退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○岡田行政改革担当大臣 以上で本日の会議を終了いたします。御協力、誠にありがとうございました。